

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800970		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら市川妙典 1Fユニット		
所在地	千葉県市川市塩焼4-14-22		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★ 入居者様を中心とした日々の暮らしの確立を図り、又その人らしく生活をして頂く為の個別ケアによる自立支援を行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第2の我が家だと思っただけの安心で安全、笑顔あふれるホーム」をホームのあるべき姿として掲げ、職員間で目標を共有しながら取り組んでいる。今年度においては職員のスキルアップを図るために、内外の研修を充実させ、特に内部研修においては毎月のホーム全体会議後に毎月テーマに沿った勉強会を定着させている。また、利用者への支援についても、利用者一人ひとりの要望に応じた個別ケアのほか、食事の準備では買い物から調理準備、後片付けに至るまで利用者も関わりながら準備を進める事ができるよう各フロア間で取り組みを強化したことで、利用者の活動性も高まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議において理念の共有に努めている。月間目標をスタッフ全員で実践につなげるようにしている。	会社の社訓、運営方針、ホームの3年後の目標を事務所に掲示している。職員の理解を深めるために、朝礼時に会社の運営方針を確認しているほか、毎月の月間目標の振り返りをユニットミーティングで行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事や清掃活動に積極的に参加している。	地域とのつきあいでは、利用者と一緒に地域サロンに参加するほか、地域行事(盆踊り、運動会、敬老会、餅つき大会等)への参加を通じ、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症への理解を伝えるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加も多く、意見を聞き、より良い取り組みが出来るよう努めている。 自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員も常に参加されている。	運営推進会議は2か月に一度定期的実施している。会議には地域包括、民生委員、自治会長、家族の方が参加し、毎回テーマを決め、ホームの取り組み状況や参加者との意見交換を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて事業所の取り組みを伝えるように努めている。	市の担当課との関係については、運営上の疑問点等がある場合には相談できる体制としている。地域包括支援センターとは、新規利用者に関する事など日頃から連絡を取る事が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修が行われ、穏やかに過ごして頂ける、ユニット会議等で話し合い、理解を深めている。玄関オートロックについては、希望に沿った支援に努めている。	法人内にリスクマネジメント委員会があり、ホームからも委員を選出し2か月に一度委員会を開催し、ユニット会議時に委員会報告を行っている。現状、玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議等で話し合いを行い、ゆとりを持った支援を心掛けている。		

グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により学ぶ機会を多く持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等では、意見や要望を出してもらえ るが、ホーム入り口の意見箱は、まだ反映 できていない。	家族からの意見に関しては、面会時や電話報告 時に直接伺うほか、ホーム玄関先に意見箱を設 置し、意見が表出できる環境を整えている。また、 家族交流会(年2回)を実施し、家族からの意見や 要望を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やリーダーとの情報共有をし、職 員の意見を広く聞いていく努力をしている 。	全職員に「個別目標設定シート」を配布し、リー ダー、管理者による一次、二次評価を通じ職員と 面談し、職員の意見や提案を聞く機会を設けてい る。また、毎月のユニット会議時において職員間 で意見交換できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	個人面談を行い、職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	社内研修へ積極的に参加している。話しや すい雰囲気作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修への参加を認めており、それを利用し て同業者との交流が持てるようになった。		

グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との面談から今までの暮らしを知り、より理解を深め安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を十分に行い、今までの過ごされ方や要望を伺い、より良い関係を作る為、連絡はこまめにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況確認を行い、必要なサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、出来る事を増やししながら、信頼できる関係が作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の様子を生活情報シートで報告し、家族とも話し合える関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事を通して、交流を途切れないように努めている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、友人の来訪や家族の協力を得て、馴染みの場所に出かける事ができるように支援する等、関係の継続性に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が外出する機会を職員も一緒に支え、良い関係作りに努めている。		

グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談等に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や暮らしの中から、本人の望みを掴んでいく努力をしている。	利用者の思いや意向については、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者からの要望のほか現状の課題等について収集している。	ケアプラン作成時にはアセスメントを実施し、利用者の課題や要望を収集しているが、各ユニット間において取り組み状況にばらつきが見られる事から、今後の改善に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の記録等から、生活歴や暮らし方の好みを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化を見極め、生活リズムを作れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る事・出来ないことを把握し、担当者会議で話し合い、変化を滞りさせないように努めている。	アセスメントの結果を踏まえ担当者会議を行い、職員の意見を踏まえケアプランを作成し、家族にも確認頂き同意を得て、毎月のモニタリングを通じて利用者満足度を確認する仕組みとしている。	一連のケアマネジメントの流れについて、ホーム全体で再度確認をし、各フロア間においてばらつきが無い等、期限が切れている物がないか等、ホーム全体でチェック体制を強化していく事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録し、変化に気付いたら話し合い情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分な話し合いをして、望んでいることを取り入れる支援を心掛けている。		

グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事やサロンに参加して、多くの交流が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの病院での受診になり、全員が個人カルテ作りを行いました。速やかに受診対応が出来ると思われれます。	ホーム提携先医療機関による往診が月2回あるほか、訪問看護ステーションとも連携し週に一度回診がある。主治医とは24時間連絡が可能であり、急変時においても迅速に対応できる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有をしっかりとて、より良い受診・看護が受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常生活の変化等を伝え、早期に情報交換できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族や職員との話し合いを重ねるが、課題は多いと思われる。	「重度化した場合の対応に関わる指針」において、重度化や終末期に向けた方針を明確にし、「医療連携体制加算同意書」に同意を得ている。重度化や終末期に向けた方針は契約時に説明し、早い段階から方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練を受け、身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、対応出来るよう努めている。	災害時備え、年2回避難訓練を実施している。地域との協力体制については、運営推進会議を通じて町会長に協力を依頼し、地域からの協力が得られる体制が築かれた。	

グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係が、不適切な対応になっている時があるので、ユニット会議で振り返り、尊厳ある支援に努めている。	利用者に対して「尊厳ある声かけ」を徹底していく事を毎朝の朝礼時にホーム長が職員に伝えている。法人全体においても「接遇強化月間」を設ける等、会社全体で取り組みを強化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、本人の選択する行為を多く持つ支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	役割りを持った生活には、まだ不十分なので、話し合いを重ね望む支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わない服を着ていた時は、声掛けをする。自分で選べない時は、職員と一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、一緒に行くことがまだ少ないので、増やしていけるように努めている。	食事に関する支援では、準備から後片付けに至るまで、利用者にも参加を促し一緒に取り組めるように支援している。買い物も近隣のスーパーを利用し日々利用者と一緒に出かけている。外食なども適宜取り入れ、食事を楽しむ工夫もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作りには、注意を払っています。食事やお茶のときだけでなく、いろいろな場面での水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと介助を行っている。		

グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、支援の仕方を話し合い、情報共有に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを「週間経過一覧表」に記録し、一人ひとりの排泄パターンを共有している。利用者の状態に応じ、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や、散歩・体操・ヨーグルト等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って対応出来るようにしている。	入浴に関しては、利用者のリズムを考慮し、本人の希望も踏まえながら入浴できるように支援している。時間帯を決め入浴する利用者もいるが、希望があれば柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調に気づかい、安心して休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに挟み、ユニット日誌にも記入をして、確認・情報を把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分に行われていないところもあるので、生活に張りのある支援の取り組みに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や地域のサロンに参加する支援をしているが、出来ない時もある。	各フロアにおいて年間行事予定表を作成し、地域の行事への参加や梨狩りやバスを利用した紅葉ツアー、外食会の実施、家族の協力を得て外出できるように支援する等、戸外活動の充実に取り組んでいる。	



グループホームきららし市川妙典(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援するが、出来ない方もいるので、十分とは言えない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分が、居心地良くなるように配慮を行い、体調等も考え、穏やかに過ごせる支援をする努力をしている。	利用者が集うリビングには、季節の花を飾るなど季節感を感じられる雰囲気とし、華やかな装飾は避け、利用者が居心地良く暮らせるようにしている。今年度共用部分の床、壁面を新調し、快適性が向上した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の人間関係を職員が把握し、好みの場所で過ごす工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時に説明を行っている。本人の変化に合わせた支援を家族と相談している。	居室においては、利用者の馴染みの物を持ちこめることをお伝えし、居心地良く過ごせるように配慮している。居室内の掃除も定期的に行い衛生面にも配慮し快適に利用できるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースの安全を確保できるように努めている。		